

2022年度第2回中京競馬特別レース名解説

<第1日>

○ 伊良湖特別

伊良湖（いらご）は、愛知県田原市、渥美半島の先端町。伊良湖岬周辺は、1月上旬から3月下旬まで咲く菜の花の名所として有名。同岬と三重県鳥羽市の神島との境の海峡は、伊良湖水道と呼ばれ、古くは潮流が速く暗礁もあるため航海の難所として知られていた。

○ 恋路ヶ浜特別

恋路ヶ浜（こいじがはま）は、渥美半島の伊良湖岬灯台付近から日出の石門までの約1kmにわたる白浜の海岸。高貴な男女が恋に落ちて都を追われ、この地に逃れてきたものの、好奇の目に耐えかねて男性は裏浜の弁財ヶ浜に、女性は岬の恋路ヶ浜に別れて住んでいた。二人はやがて病に倒れ、世間を恨みながら亡くなり、女性の心は女貝に、男性の心はミル貝になったという悲恋の伝説がある。

○ 中京スポーツ杯

中京スポーツは、東京スポーツ新聞社の中部支社から発行されている夕刊紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第2日>

○ 岡崎特別

岡崎（おかざき）は、愛知県中南部の市。矢作川とその支流である乙川の流域に位置し、東海道の宿駅として発展した。徳川氏ゆかりの地で、家康の出生地でもあり、市内には岡崎城跡など多くの史跡が残っている。600年ほど前から醸造されている八丁味噌が名産。

○ 昇竜ステークス

昇竜（しょうりゅう）は、空に昇っていく竜のこと。勢いがよいことの例えに用いられる。

○ 金鯨賞（GⅡ）

本競走は、昭和40年に創設された重賞競走。グレード制の導入後はGⅢで実施されていたが、平成8年にGⅡに格上げされた。それに伴い、負担重量がハンデキャップから別定となり、距離も当初の1800mから2000mに延伸された。創設時は春季に実施されていたが、24年に秋季へと移設され、29年から再び春季に実施されることとなった。なお、第1着馬には同年の大阪杯への優先出走権が与えられる。

競走名は、名古屋城のシンボルである「金の鯨（しゃちほこ）」に由来する。

<第3日>

○ 矢作川特別

矢作川（やはぎがわ）は、木曾山脈南部に源を發し、愛知・岐阜県境の山間部を流れて三河湾に注ぐ川。延長 118 km。豊田市内で明治用水に取水されるほか、西三河地域の水道用水や工業用水に利用され、中京工業地帯の重要な水資源となっている。

○ 豊橋ステークス

豊橋（とよはし）は、愛知県南東部の市。豊川下流南岸に位置する。松平氏の城下町、東海道五十三次の吉田宿、二川宿として発展した。また、遠州灘沿いの表浜海岸はアカウミガメの産卵場所として知られる。西部には、自動車の輸入台数、金額ともに国内最大規模を誇る三河港を中心に臨海工業地帯が形成されている。

○ 中日スポーツ賞ファルコンステークス（GⅢ）

本競走は、昭和 62 年に『中日スポーツ賞 4 歳ステークス』の名称で創設された重賞競走。創設当初は 1800m で実施されていたが、平成 8 年に距離が 1200m に短縮され、13 年に現在の名称となった。その後、重賞競走体系の見直しに伴い、18 年には実施時期が 6 月から 3 月へと移された。また、24 年には距離が 1400m に延伸された。

ファルコン（Falcon）は、ハヤブサを意味する英語。

中日スポーツは、中日新聞社から発行されているスポーツ紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第4日>

○ フローラルウォーク賞

フローラルウォーク（花の遊歩道）は、名鉄名古屋本線中京競馬場前駅から中京競馬場までを結ぶ屋根付きの通路の愛称。上屋は四季折々の花で飾られている。平成 17 年に名古屋競馬株式会社の施工により完成したもので、雨の日も濡れることなく駅と競馬場を往復することができる。

○ 熱田特別

熱田（あつた）は、名古屋市南部の区。熱田神宮の門前町として発展した。江戸時代には宮宿と呼ばれ、東海道最大の宿場町として栄えた。熱田神宮は熱田大神を祭神とし、神体は草薙神剣であり、「熱田さま」「宮」として親しまれている。

○ 名古屋城ステークス

名古屋城（なごやじょう）は、名古屋市にある城。慶長 14 年（1609）に徳川家康の命で諸大名が築城し、完成後は尾張徳川家の居城となった。シンボルの「金の鯨（しゃちほこ）」が輝く天守閣は、現在も名古屋の顔となっている。平成 30 年にはかつての国宝であった本丸御殿が復元されるなど、近年一層注目が高まっている。

<第 5 日>

○ 天白川特別

天白川（てんぱくがわ）は、愛知県日進市から名古屋市を流れ、伊勢湾に注ぐ河川。名は、天白橋付近に天白大明神が祀ってあったことに由来する。

○ 熊野特別

熊野（くまの）は、三重県南部の熊野灘に面する市。吉野熊野国立公園内に位置し、地域は豊かな自然と温暖な気候に恵まれている。平成 16 年には熊野三山への参詣道である熊野古道が「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録された。

○ 名鉄杯

名鉄（めいてつ）は、名古屋鉄道株式会社の略称。名古屋市を中心として愛知、岐阜両県にまたがる路線を持ち、沿線には中京競馬場の最寄り駅である中京競馬場前駅がある。同競馬場のスタンド東側には名鉄の元特急電車 7000 系パノラマカーを保存展示した「パノラマステーション」が設置されている。なお、本競走は同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第 6 日>

○ 大寒桜賞

大寒桜（おおかんざくら）は、バラ科サクラ属の落葉高木。花は半開状で下を向いて咲く。競走名は、平成 24 年の中京競馬場グランドオープンにあたり、中京馬主協会より 3・4 コーナーのコース外周沿いに大寒桜が寄贈されたことを記念して名付けられた。

○ 鈴鹿ステークス

鈴鹿（すずか）は、三重県北部の市。古くは伊勢国府・国分寺が置かれた。西部には、日本初の国際レーシングコースである鈴鹿サーキットがあり、自動車レース最高峰の F1 日本グランプリやオートレースの鈴鹿 8 時間耐久ロードレースなどが開催される。

○ 高松宮記念（G I）

本競走は、昭和 42 年に創設された『中京大賞典』を前身とする重賞競走。46 年に高松宮殿下から優勝杯を賜ったのを機に『第 1 回高松宮杯』に改称された。以来、距離 2000m の別定重量戦で実施されていたが、平成 8 年に距離が 1200m に短縮されるとともに、G II から G I に格上げされ、中京競馬場初の G I 競走となった。また、10 年には競走名が『高松宮記念』に変更され、12 年には実施時期が 5 月から 3 月下旬へと移された。春の古馬短距離路線の頂点を決める競走であるとともに、春の G I シリーズの始まりを告げる一戦となっている。

○ 四日市特別

四日市（よっかいち）は、三重県北部の市。地名は、毎月 4 のつく日に市が開かれたことに由来する。江戸時代は、北勢の行政・商業の中心地として、幕末から明治にかけては、菜種油や肥料の生産や取引の盛んな町として栄えた。その後は、繊維工業、機械工業、化学工業の進出が相次ぎ、中京工業地帯の代表的な工業都市となった。